

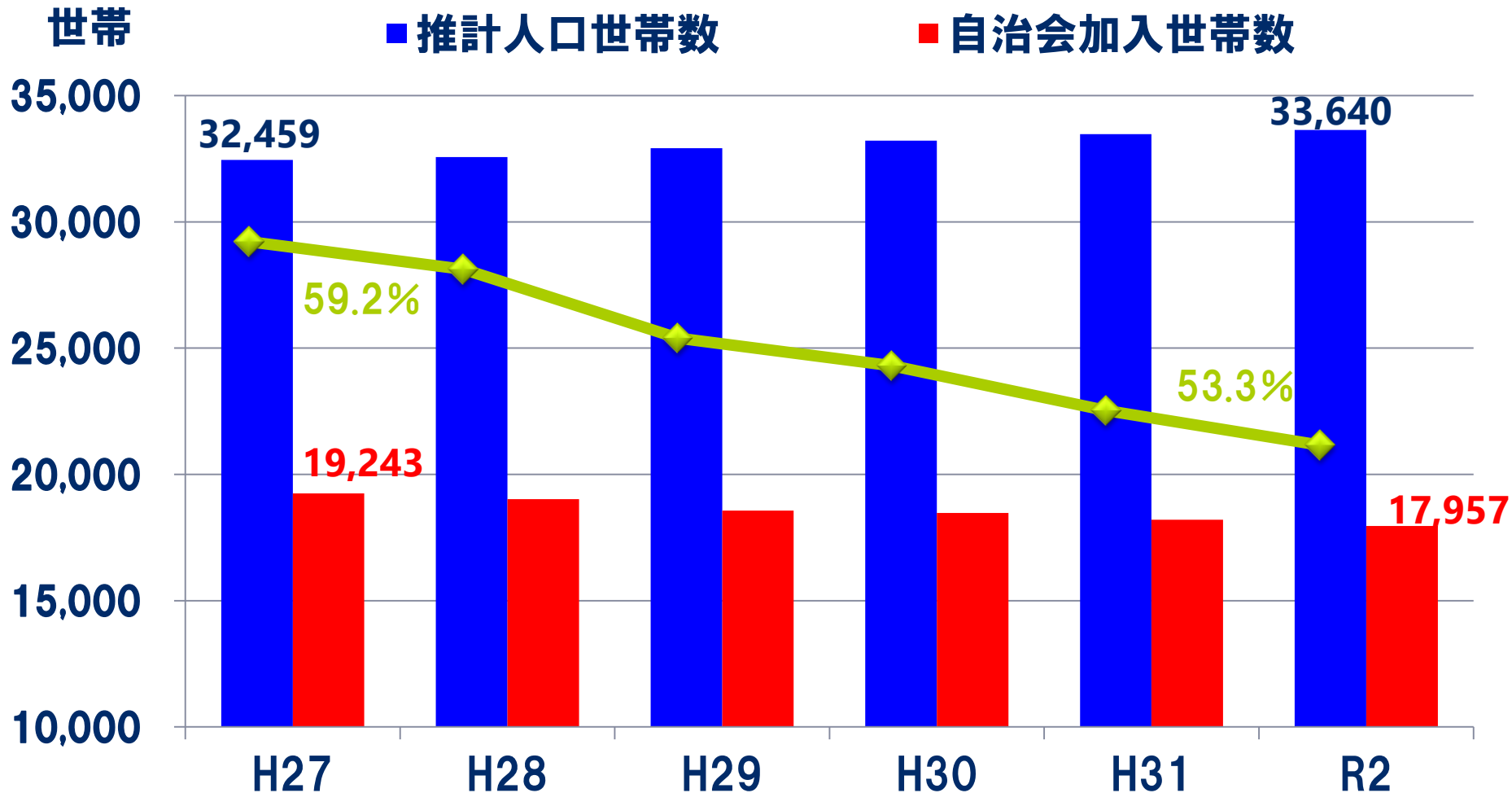
(仮称) 自治振興条例策定に向けて

条例の背景と目的

自治会の加入率減

自治会加入世帯率(折れ線グラフ)： **17.7%減**(H13比)

71.0%(H13) ⇒ 53.3%(R2)



自治会活動による自助・互助・共助

自治会活動による取組み



地域の人や情報が集まる



地域の人との繋がりを醸成
地域の情報・課題を共有



いざという時の予防・助け合い

条例策定の背景と目的

- 価値観の多様化等による自治会加入率の低下
- 地縁的なつながりの希薄化による
地域力の低下への懸念



多様化する市民ニーズや地域課題、度重なる自然災害などに対応していくためにも、人と人とのつながりが重要なため、地域のことを自分ごと化して考えていくことが必要である。

条例策定の背景と目的

なぜ（仮称）自治振興条例を作るのか



- 市民（団体）と行政が対等な立場で、互いの現状や課題、地域のニーズなどを共有し、解決策を考える仕組みを作る。
- 今後、行政が多様な市民（団体）との対話や情報共有、地域活動のサポートをしていくための姿勢や仕組みを整える。

条例策定にあたって

- 条例では市民、自治会・校区自治組織といった地縁団体やテーマ型の市民活動団体、行政の役割をあきらかに
- 市民参画・協働のルールについても整理



- 条文づくりも重要だが、条例をつくる過程で地域の課題や考えを共有することを重視
- ワークショップ等の中から、市民や地域で新たな行動が生み出されることも目標

条例を作る過程

- 自分ごと化会議（ワークショップ）
無作為抽出で選ばれた市民と地域団体や市民活動団体の関係者で日常生活で感じている身近な事柄から、地域の現状と課題を整理し、「（行政・団体に）どうしてほしいか」ではなく、「（個人・地域に）何ができるか」、「自分はどうありたいか」を考える。
- 市民意見交換会
令和３年度に各小学校区で開催予定。
- 条例検討委員会
ワークショップで出てきた意見をまとめて条文等を検討。

長岡京市の現状と課題

長岡京市の自治会

【自治会の現状（令和２年度）】

- ・ ５７自治会、加入世帯は約１８,０００世帯
- ・ 自治会未組織地域(約２,４００世帯)

【主な目的・活動】

- ・ 運動会や夏祭り等 親睦事業
- ・ 防災・防犯の運動
- ・ 道路や水路、公園等の美化
- ・ 文化、体育振興
- ・ 地域諸問題の解決 等

高台自治会の取組み

防災散歩

- ・避難経路を歩く
- ・地域の防災設備の確認



子ども避難訓練

- ・多世代交流の側面



ふれあいサロン（映画会）

- ・月に1回
- ・お菓子と飲み物で親睦



健康体操教室

- ・情報共有
- ・終わった後はおしゃべり

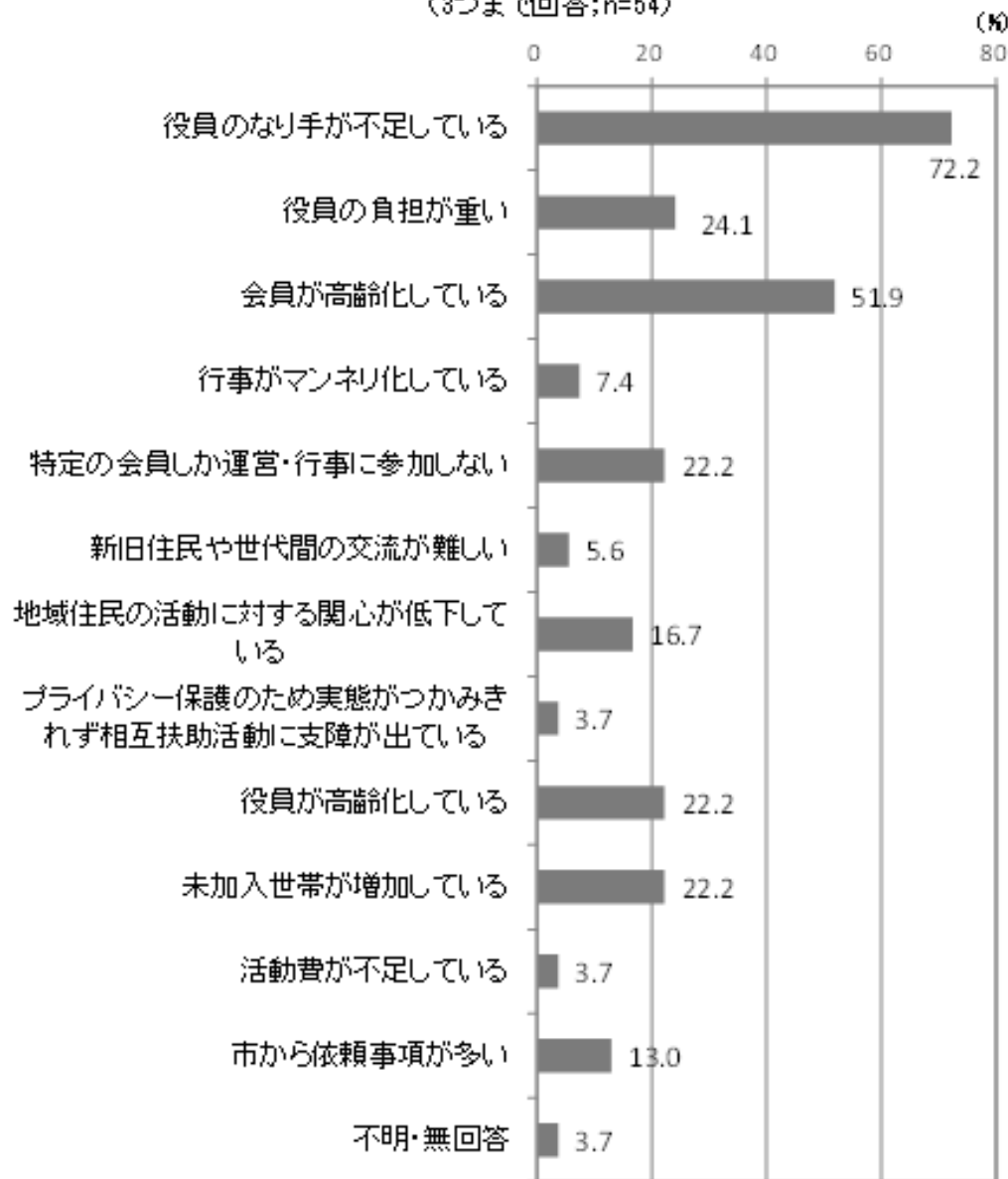


市と自治会との関わり

- 2か月に1回 自治会長会
⇒市政協力員として市から配布物の掲示や回覧
- 廃棄物減量等推進員、防犯委員、
少年補導委員 等
- 市からの補助金
⇒加入世帯数ごとの運営補助金や
地域集会所への補助金 等

市民アンケート結果

自治会活動を行う上で、特に課題になっていること
(3つまで回答;n=54)



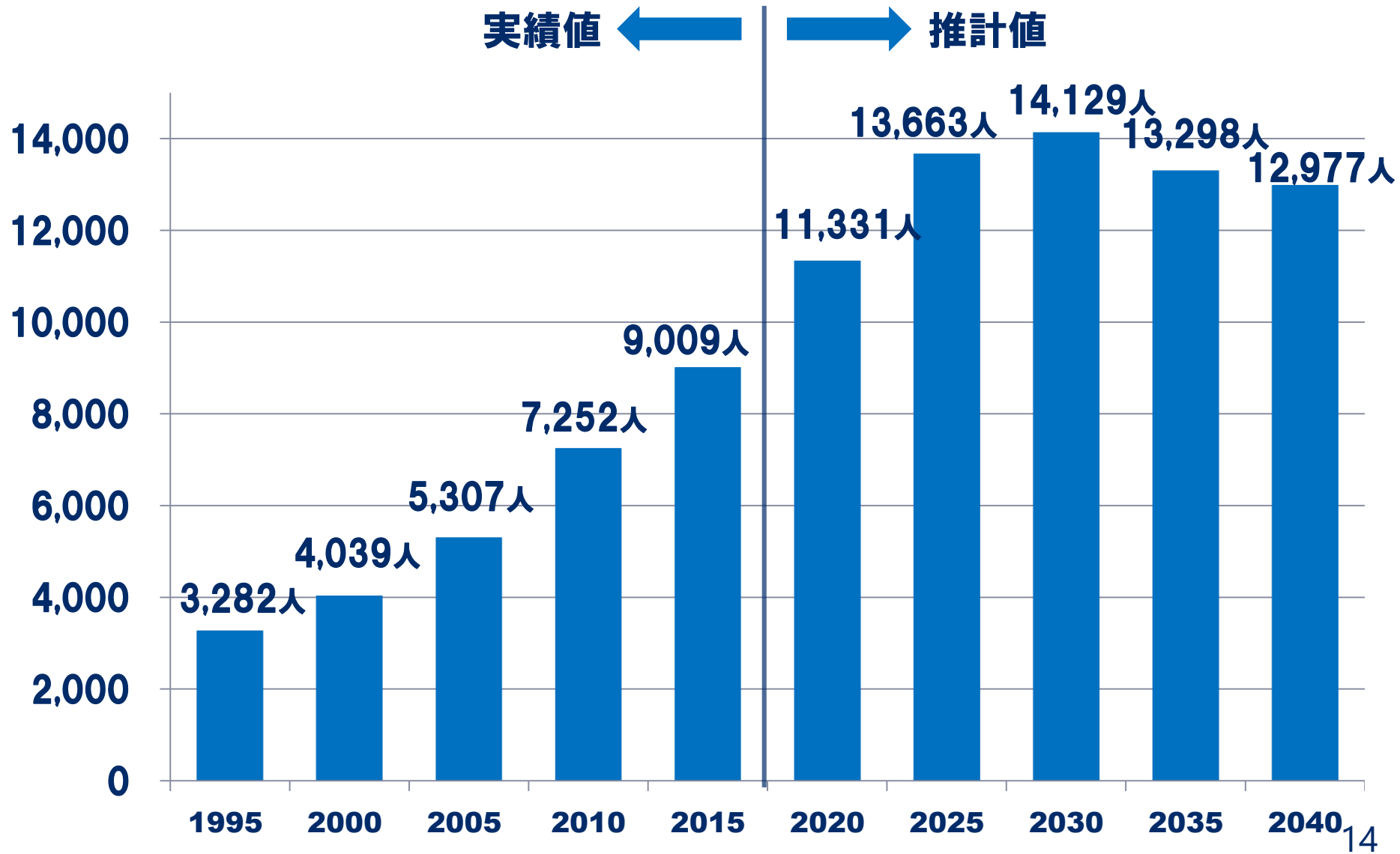
自治会活動を行う上で、特に課題
となっていること

- ・「役員のなり手が不足している」が最も多く72.2%
- ・「会員が高齢化している」が51.9%
- ・「役員の負担が重い」が24.1%

長岡京市まちづくりのための
市民・地域活動団体アンケート
調査報告書

(令和元年度) より

75歳以上の人口の推移



地域コミュニティ協議会

⇒地域が主体となり、小学校区単位の「共助」を進めるための組織

⇒自治会活動と相互補完し、地域活動を活性化

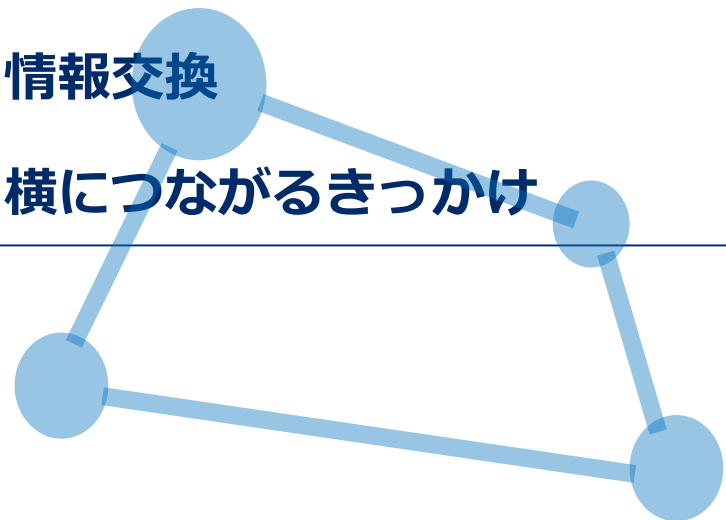
今まで

- ・ 各種団体や個人がそれぞれで活動
- ・ 横のつながり 少



協議会による地域活動

- ・ 各種団体や個人がフラットに情報交換
- ・ 横につながるきっかけ



地域コミュニティ協議会

【目 的】

- 高齢者福祉
- 子どもの見守り
- 防災・防犯
- 環境保全 等

⇒広域の視点

【構成団体】

- 自治会、自主防災会
- 民生児童委員
- 学校、P T A、
学校開放
- 総合型地域スポーツ
クラブ

ほか校区により異なる

地域コミュニティ協議会の設立状況

⇒ **現在、8校区で設立済み**

小学校区	設立状況
神足小学校区	
長法寺小学校区	H29年11月
長岡第三小学校区	H26年 2月
長岡第四小学校区	H23年 2月
長岡第五小学校区	H24年 6月
長岡第六小学校区	
長岡第七小学校区	H22年10月
長岡第八小学校区	H29年 5月
長岡第九小学校区	H23年 3月
長岡第十小学校区	R2年2月

協議会への補助金

- 協議会補助金
 - ⇒ 校区祭り、防災訓練、校区清掃活動、
コミュニティニュース（校区内全戸配布）、
運営事務経費 等
- 事務局強化支援補助（自主運営化後）
 - ⇒ 設立当初は事務等の補助として「地域
コーディネーター」を市嘱託職員として設置
 - ⇒ 自主運営化後は有償ボランティアとして
事務局強化支援補助を交付
- 開催事業により別途補助金

地域コミュニティ協議会の活動例

全小学校区一斉避難所運営訓練

10月最終日曜日 市の「防災の日」



民生児童委員

【民生児童委員とは】

- ・ 地域住民の一員として、地域で顔の見える関係を作りながら地域の福祉を担うボランティア
- ・ 自治会等地域からの推薦で担う

【活動内容】

- ・ 担当地域の高齢者や障がいのある人の安否確認や見守り
- ・ 子育て世帯に対する支援活動（ベビーダンス教室の開催など）
- ・ 子どもたちへ通学路での見守り活動
- ・ 地域課題が深刻化しないよう行政や専門家へつなぐ
- ・ 地域福祉協議会の実施する事業への協力 等

その他の団体

【森ノ下ハチドリの会】

- 2016年から社会福祉協議会の「顔の見える関係づくり」の事業である「きずな事業」でスタート
- 自治会未組織地域で自治会に代わる組織として、地蔵盆やサロンの開催、掲示板の設置等の活動を行う

■ きずな事業（きずなと安心の地域づくり応援事業・社会福祉協議会）

地域のつながりの希薄化を始めとするさまざまな地域課題に対応するため、地域の団体や専門機関が横断的に繋がり、機能や役割を発揮しながら「住み慣れた地域で安心して暮らせる」よう、きずなコーディネーターがお手伝いをする事業

【自主防災会】

- 災害時における「共助」
- 市内に58団体（各自治会、一部町内会に）設置
- 各種訓練やマイ防災マップの作成など

市民活動団体

- 153団体登録

(R2.9月末時点・市民活動サポートセンター登録数)

【市の主な市民活動支援】

- 市民活動サポートセンターの設置
- 長岡京市市民活動応援補助金
⇒スタートアップコース、市民提案型コース
- 市民活動オフィスフロアの設置
⇒団体のオフィスとしてデスクと作業場を有償で提供

市民活動サポートセンター

- テーマ型の市民活動団体だけではなく地縁団体（自治会）も登録
- テーマ型と地縁型の交流会なども開催（例：防犯・防災）
- 市民活動団体の中間支援
- 活動の相談、団体同士の連携の推進、会議スペースの提供、印刷機の利用など

市民アンケート結果

団体活動の問題点

長岡京市まちづくりのための市民・地域活動団体アンケート調査報告書
(令和元年度) より

- 会員が高齢化
- 会員数が減少している
- 活動内容の見直しが求められる
- 役員や後継者などの人材が不足している
- 広報活動が不十分である
- 活動の場所に困る
- 費用が不十分である
- 行政の協力が不十分である

市民アンケート結果

問題点・課題への対応策

長岡京市まちづくりのための市民・地域活動団体アンケート調査報告書
(令和元年度) より

- 活動が縮小／継続が困難
- 後継者がいない／解散を検討
- 他の団体と一緒に活動する
- 民間との役割分担を進める
- 数年後自然消滅の恐れがある
- 頑張るしかない
- 新規加入がなく、個人情報への壁があって加入も難しい
- 気楽に入会できる仕組みをつくる

市内企業と地域のつながり

- 各校区祭りや清掃事業等への協力
- 長岡京ガラシャ祭への参加
(行列参加や出店、協賛金等)
- 法人として自治会の会員に